

**4K カメラ対応ポータブルズームレンズのラインアップを拡充
高い光学性能と高倍率 25 倍ズームを実現した“CJ25e×7.6B”を発売**

キヤノンは、2/3 型センサー搭載の 4K カメラに対応するポータブルズームレンズ「UHDxs^{※1}」シリーズの新製品として、高倍率 25 倍ズームを実現した“CJ25e×7.6B”を 2019 年 2 月下旬より発売します。



CJ25e×7.6B

新製品“CJ25e×7.6B”は、2/3 型センサー搭載の 4K カメラに対応する高い光学性能を持ちながら、高倍率 25 倍／焦点距離 7.6～190mm を実現しています。さらに、小型・軽量の筐体により高い機動性と操作性を備え、スポーツ中継やニュース撮影などの報道や、屋内外のロケなど、さまざまな用途に適しています。

■ 4K カメラに対応する高い光学性能で高品位な映像撮影を実現

蛍石や UD^{※2} ガラスを採用するとともに、それらを最適配置する独自の光学設計技術により、ズーム全域で画面中心から周辺部まで色にじみや輪郭の色づきを抑制し、高い解像力と高いコントラストを実現した高精細な映像撮影が可能です。また、レンズのコーティング技術や鏡筒内面の反射を防ぐ設計により、ゴースト・フレアの抑制や優れた色再現を達成し、HDR^{※3} や WCG^{※4} の映像撮影にも適しています。

■ 幅広い焦点距離をカバーする高倍率 25 倍ズームによりさまざまな撮影シーンに対応

高倍率 25 倍ズームにより、広角端 7.6mm から望遠端 190 mm までの幅広い焦点距離範囲をカバーし、さまざまな撮影シーンに対応します。さらに、新ズーム方式の採用により、ズーム操作による光学性能の変化を抑制し、ズーム全域で画面中心から周辺まで高い解像力と高いコントラストを実現しています。

■ 小型・軽量の筐体で高い機動性と操作性を実現

4K 光学性能を持ちながら、質量約 1.99kg^{※5}、外形寸法約 169.6 (幅) × 114.1 (高さ) × 223.3 (長さ) mm と、小型・軽量の筐体を実現し、報道やドキュメンタリーなどの分野に求められる高い機動性を確保し、撮影者の負担を軽減します。

製品名	希望小売価格	発売日	生産台数
CJ25e×7.6B	オープン価格	2019年2月下旬	50台/月

※1 2/3 型センサー搭載の 4K カメラに対応する高い光学性能を持つ、ハイエンド向けのシリーズ。

※2 Ultra Low Dispersion Lens=特殊低分散ガラス。

※3 High Dynamic Range の略。映像の明部と暗部の輝度差 (ダイナミックレンジ) を向上させる技術。

※4 Wide Color Gamut の略。映像の色域 (カラーガンマ) を広げる技術。

※5 IASE S の場合。IRSE S の質量は約 1.91kg。IASE はフォーカスサーボ有、IRSE はフォーカスサーボ無。

- 報道関係者のお問い合わせ先 : キヤノン株式会社 広報部 広報課 03-5482-3912 (直通)
- 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンマーケティングジャパン株式会社 03-3740-3304 (直通)
: イメージングソリューション営業部
- 報道関係者用ホームページ : e-pr.canon.jp ● 放送・業務用映像機器ホームページ : canon.jp/bctv

<主な特長>

1. 4K 放送用カメラに対応する高い光学性能で高品位な映像撮影を実現

- ・独自の光学設計技術で、2/3 型センサー搭載の 4K カメラに相応しい光学性能を実現。画面中心から周辺部まで高い解像力と高いコントラストを実現。
- ・蛍石や UD ガラスを最適配置し、色収差を良好に補正。色にじみや被写体の輪郭の色づきを抑制し、高品位な映像を実現。
- ・レンズのコーティング技術や、鏡筒内面の反射を防ぐ設計により、ゴーストやフレアの発生の抑制や優れた色再現性を実現し、HDR や WCG の映像撮影にも好適。
- ・カメラ側に備えられている ITU-R BT.2020^{※1} 色域の映像の色収差を高精度に補正する機能に対応するため、ITU-R BT.2020 ベースの色収差補正データを搭載。4K カメラ^{※2} 装着時に画面隅々まで高い色再現を可能にし、より高品位な画づくりに貢献。

※1 ITU（国際電気通信連合）策定の UHDTV 放送方式の映像信号を規定する勧告。HDR/WCG に対応。

※2 すべてのカメラに色収差補正機能が備わっているわけではありません。

2. 幅広い焦点距離をカバーする高倍率 25 倍ズームによりさまざまな撮影シーンに対応

- ・広角端 7.6mm から望遠端 190 mm までの幅広い焦点距離をカバーする高倍率 25 倍ズームを実現し、幅広いシーンの撮影が可能。
- ・非球面も含めた複数のレンズ群で構成された多群ズームを採用した新ズーム方式により、ズームによる光学性能の変化を抑制。ズーム全域で画面中心から周辺まで高い解像力と高いコントラストを実現。
- ・インナーフォーカスシステムの進化により、フォーカス変動を抑制して画面周辺部まで高解像力を実現。
- ・2 倍のエクステンダーをレンズ本体に内蔵し、ズーム域を 7.6mm～190mm から 15.2 mm～380 mm に切り替えることが可能。エクステンダー使用時でも 4K カメラに対応する高い光学性能を実現。

3. HD 望遠レンズと同等の小型・軽量な筐体で高い機動性と操作性を実現

- ・4K 光学性能を持ちながら、質量約 1.99kg[※]、外形寸法約 169.6（幅）×114.1（高さ）×223.3（長さ）mm を実現。報道やドキュメンタリーなどの分野に求められる高い機動性を確保。
- ・人間工学に基づいたグリップ設計により、優れた操作性を実現し、長時間肩に担いで撮影する撮影者の負担を軽減。

※ IASE S の場合。IRSE S の質量は約 1.91kg。IASE はフォーカスサーボ有、IRSE はフォーカスサーボ無

4. 高い操作性を実現する高機能デジタルドライブユニット

- ・高分解能 16bit 絶対値エンコーダーを採用した高機能デジタルドライブユニットの搭載により、ユーザーの操作意図を忠実に再現する高い制御性能を実現。さらに、高精度な位置検出が可能のため、実際の映像とバーチャル映像を合わせる際に容易にキャリブレーションが可能。
- ・絶対値エンコーダーの採用により、ドライブユニットに電源が供給された際に、初期化の動作をせずに、カメラ側の色収差補正機能や位置検出、ビューファインダー上の位置表示が可能。
- ・20PIN 端子を 3 か所に備えることで、ズーム／フォーカスコントローラー（ともに別売り）の両方を使用した場合でも、バーチャルシステム用信号出力端子を確保することが可能。
- ・ドライブユニット上に情報ディスプレイを搭載しているため、各種機能の容易な設定、調整、操作が可能。

<ご参考>

2018年9月14日（金）から18日（火）までオランダ・アムステルダムで開催される国際放送機器展「IBC 2018」のキヤノンブースにおいて、“CJ25e×7.6B”を展示します。

<放送用レンズの市場動向>

日本や欧米諸国では、デジタルテレビ放送の普及に伴う放送機器のHD化がほぼ完了し、近年では、4K放送実用化に向けた取り組みが始まるとともに、4K対応機材の導入が進行しつつあります。一方、新興国では、今後デジタル放送への完全移行が予定されている国も多くあり、一部の新興国では4K対応機材への移行も始まっています。（キヤノン調べ）

<主な製品仕様>

型名	CJ25e×7.6B IASE S/IRSE S※
対応カメラ	2/3型4Kカメラ
ズーム比	25倍
最至近撮影距離	0.8m
外形寸法（幅×高さ×長さ）	約169.6×114.1×223.3mm
質量（本体のみ）	IASE S 約1.99kg/IRSE S 約1.91kg

エクステンダー		通常時	2倍エクステンダー使用時
焦点距離		7.6～190mm	15.2～380mm
画角	広角端	64.6° × 39.1° (7.6mm)	35.1° × 20.1° (15.2mm)
	望遠端	2.89° × 1.63° (190mm)	1.45° × 0.81° (380mm)
最大口径比	広角端	1 : 1.8 (7.6～118mm)	1 : 3.6 (15.2～236mm)
	望遠端	1 : 2.9 (190mm)	1 : 5.8 (380mm)
最近接時の撮影範囲	広角端	93.9×52.8cm (7.6mm)	48.1×27.1cm (15.2mm)
	望遠端	3.9×2.2cm (190mm)	2.0×1.1cm (380mm)

※ IRSE Sタイプは受注生産品となります。